

# 教室の窓から

令和 6年  
(2024年) 5月  
来須 真紀

## 春だ、4月だ、新学期だ。

春ですね。桜のころを少し過ぎて、新緑の季節。4月と言えば新学期。新学期は、ドキドキワクワク、楽しみ？不安？いろいろな感情が湧き出てきて、楽しいという人もいれば疲れるという人もいるでしょう。学校も同じで、春は、いろいろな行事とともにいろいろな感情があふれる子どもが多い季節となります。もちろん保護者も。さあ、いろいろな行事とともに、教師自身も新しい環境に戸惑いながら、子どもや保護者にどう接していくか。どんなアプローチをしていくのか…。ここは腕の見せ所と言ってもいいでしょう。

## クラス替えあれこれ

新学期と言えば、一番ドキドキするのはクラス替えではないでしょうか？担任も、友だちもガラッと変わる。この1年を左右するクラス替え。ドキドキするのは当たり前ですよ。

クラス替えってどうやって決めるの？こんな疑問をもったことはありませんか？今回は、ほんのちょっとだけ、クラス替えってどうやって決めるの？という疑問にお答えしたいと思います。

前の年度の年明けになると来年度のクラス分けに関する提案が、担当の職員からあります。その提案が承認されると提案に沿ってその年の担任がまずは自分のクラスのメンバーを次年度のクラス数に分けます。分ける基準は、たくさんありますが、一番は次の年度も子どもたちの学校生活が楽しく充実したものになるように願って人間関係や、下校する道などに至るまで配慮しながら分けていきます。

自分のクラスを分けたら、他のクラスの担任とそれぞれが分けたものをドッキングしていきます。ドッキングして終わり…ではありません!!もう一度全体を見渡して、「この方がいいのではないか?」「いや、こうした方がいいのでは?」と2~3回、日にちを変えて、話し合いながら決めていきます。よし決まり!!となるとこれで終わりではありません!!学年で分けたものを、専科の教諭、養護教諭、管理職と関係する教諭に見てもらい、そこからまた分けたものを変えていきます。それが終わって、やっと「とりあえずは完成」となります。完成したものは厳封して校長室保管。というものが私が経験したクラス替えの一般的な流れとなります。

## クラス替え要望あれこれ

保護者のとってのわが子のクラス替えは、ドキドキものです。「意地悪なあの子と一緒にになったらどうしよう」「仲の良い子がいないクラスになって行きたくないって言ったらどうしよう」「あそこの保護者とは以前にもめたのよね。」等々。心配はつきものです。多少の心配なら、家庭で子どもの不安をやわらげたり、解消したりすることもできるかもしれませんが、親子そろっての解消できない不安は、やはり担任に相談してほしいと思います。これくらいのことでは困るかしら?とは思わなくても大丈夫。(だと私は思っています。内容にもよるところはありますが…)ただ、要望が100%通るとは限らないということは、ご理解の上でということが大切だと思います。残念ながら、今の学校では、学年の全人数によってクラス数が決まります。すべての要望をかなえたいのは山々なのですが、かなえることができない現実もあるということをご理解いただければと思います。しかし、保護者から切実にお願いされたことは、確実に配慮事項として新年度に引き継がれるはず…ですので、要望したことに無駄はない!と、私は信じております。今年度過ごされて、来年度のクラス分けにお願いしたいことがある保護者の皆様、要望を相談するなら、ぜひ年末までに。されてみてはいかがでしょうか?

## 担任決定のあれこれ

クラス替えに続いて気になるのが、「誰が担任になるの?」ということでしょうか?残念ながら、こちらに関しては、要望は、配慮することができない。というのが正直なところだと思います。配慮しないというよりしたくてもできないという言いの方がしっくりくる気がします。というのも、教員には避けて通れない「転勤」というもの、会計年度の教諭に関しては「来年度も同じ学校で採用があるのか?」ということがあります。これは3月の終わり、内示の時期にしか分からないので、どうしようもありません(涙)来年度の人事が分かった後、それぞれの教員の専門教科や得意なこと。年齢、次の転勤まで何年位あるのか、新しく転勤してくる先生はどんな方がいらっしゃるのかなどなどバランスを取りながら、決めなければならず、教員にとっても引き続き今の学年を担当したいなと思っていてもそうはならないことも多くあるというなかなかシビアな世界なのです。この校内人事の決定をする管理職の方は本当に大変な思いをされていると心中お察しします…。

もし、今年度の担任の先生に不安があると思っていられる方がおられるなら、その不安を、現担任に言いにくければ管理職、前年度の担任学校などの言いやすい教員に打ち明けてみられるといいのではないかと思います。きっと話を聞いてくださると思います。